

NPO法人
健康住宅普及協会
ロードマップ



新しい視点
「コミュニティビルダーの確立」
を目指して

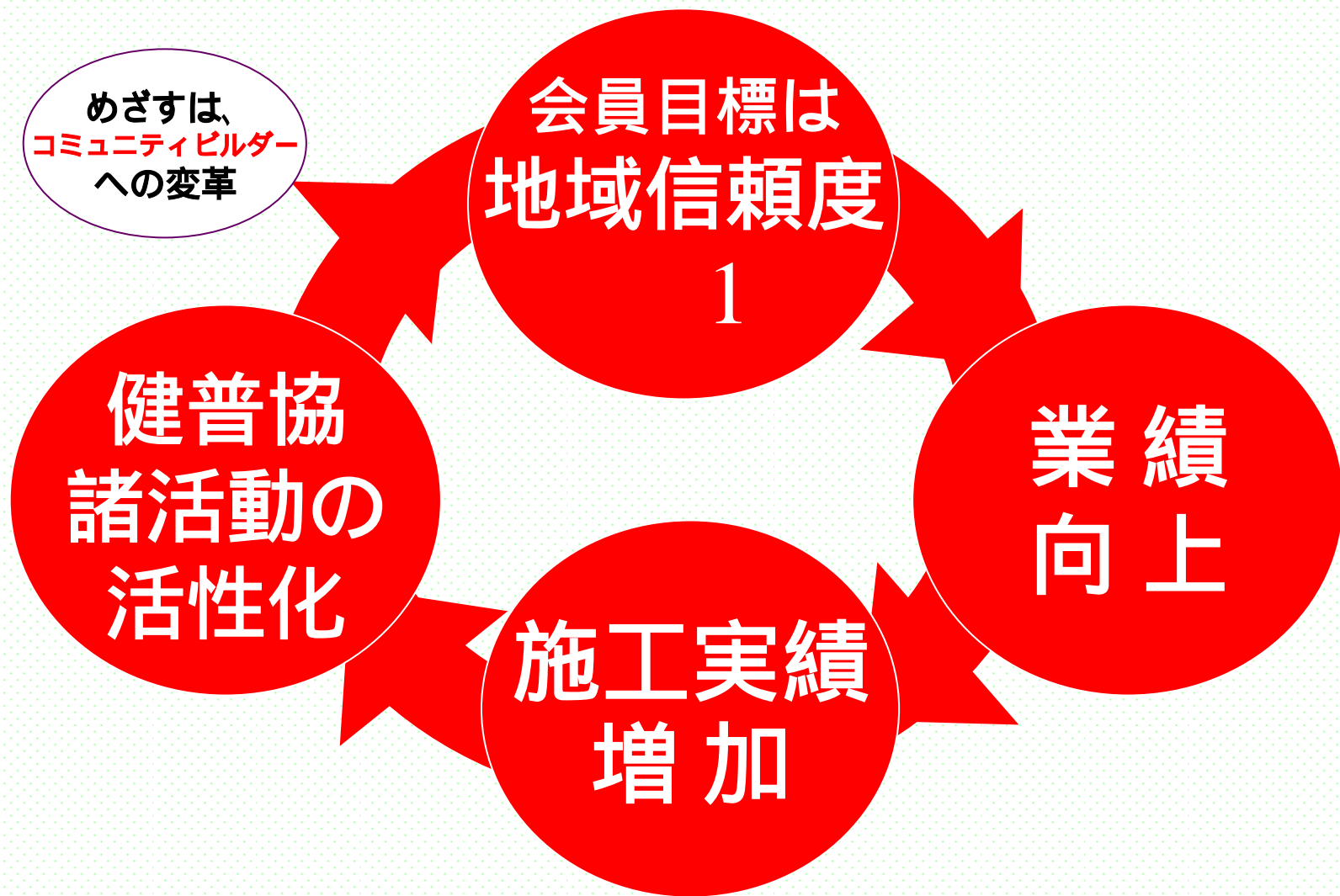
2006年5月18日

2006通常総会決議

1. 健普協会員の活動ストーリー

活動の理想的な循環イメージ

諸活動が、確実に業績向上につながることを。



2. 健康住宅普及協会の 活動目的

設立の原点を、もう一度再確認！

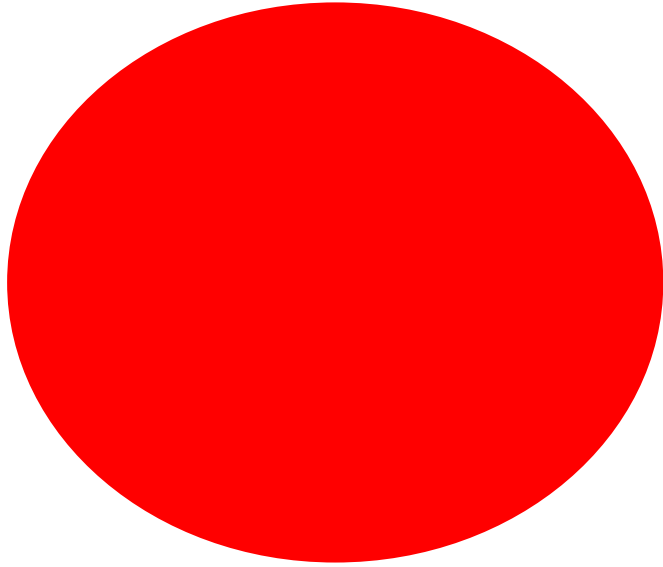
基本理念

会員相互及び関係諸機関との連携による共同研究を行い、

人が安全で快適に暮らせ、そして耐久性の高い器、そのような健康住宅を広く社会に建設し、普及すること。

そして、国民の保健及び福祉を増進し、健康なまちづくりの推進と環境の保全を図り、環境と共存する家をつくることで地域貢献する。

(2001年11月NPO法人化時の設立趣旨より)



健普協の
活動目的は、
健康住宅の
研究そして
建設・普及！

3. 健康住宅普及協会の 事業内容

設立当初からの事業内容について

事業ポイントは、健康住宅の研究をさらに進め、建設に携わる人を育て、健康住宅の普及を推進すること。

研究 /
啓発

真の健康住宅への研究成果を会員へフィードバック

一般消費者等への啓発・普及活動

健康住宅
の
普及
システム
づくり

健康住宅認定制度の充実：健康住宅認定項目の拡充

健康住宅建設事業者の育成：“健康住宅指導員”

健康住宅に関わる調査(検査)受託と研究および指導

4. 健康住宅普及協会の 歴史 を知っておこう

活動の主な歩み

今までは立ち上げ期、黎明期であり、本格的な事業化はこれから。



5. 健康住宅普及協会 2005改革のねらいと意義と今後

発展に向けての改革着手

2006年 組織改革をすすめ、活動のあり方を見直す。

これまでの活動の問題点・課題

今までの活動は、住宅の性能・機能（ハード）の論議が中心。一般消費者には、理解しにくいし、伝わらない。

健康住宅の概念そのものが、あいまい。健普協の諸活動もインパクトに欠ける。

IT化の進展、安全対策・環境重視、危機管理、少子・高齢社会など、社会構造、消費者意識は大きく変化。

新しい健康住宅への模索が必要となっている。

2005 改革テーマの実践

もう一度

NPO原点に立ち返り、

消費者視点の活動へ

これからの消費者が求める、消費者が納得する健康住宅の普及を目指す

そのために取り組む“健康”の概念を広げる

<今まで> 家(ハード)を軸とした健康

<これから> 家(ハード) + 住む人の健康

6. めざすは、コミュニティビルダー 活動の実現。

健普協は、このSTEPをつくる！

健普協の活動



言い換えれば、本質的な“勝ち組み”へのストーリーである

STEP1

学び勉強するビルダー

消費者視点の
変革へ。知識・
技術の習得と
追求の開始



STEP2

アドバイス
できるビルダー

消費者視点の
知識・技術の習得
と追求

健康住宅指導員
資格を取得し相談・
アドバイスができる
人材の育成



STEP3

コミュニティ
ビルダー
(信頼度地域 1)

消費者視点の
知識・技術の習得
と追求

健康住宅指導員
資格を取得し相談・
アドバイスができる
人材の存在

健康住宅の診断
や認定検査を実施
している

自社建築物
がPOEで高く評価
される

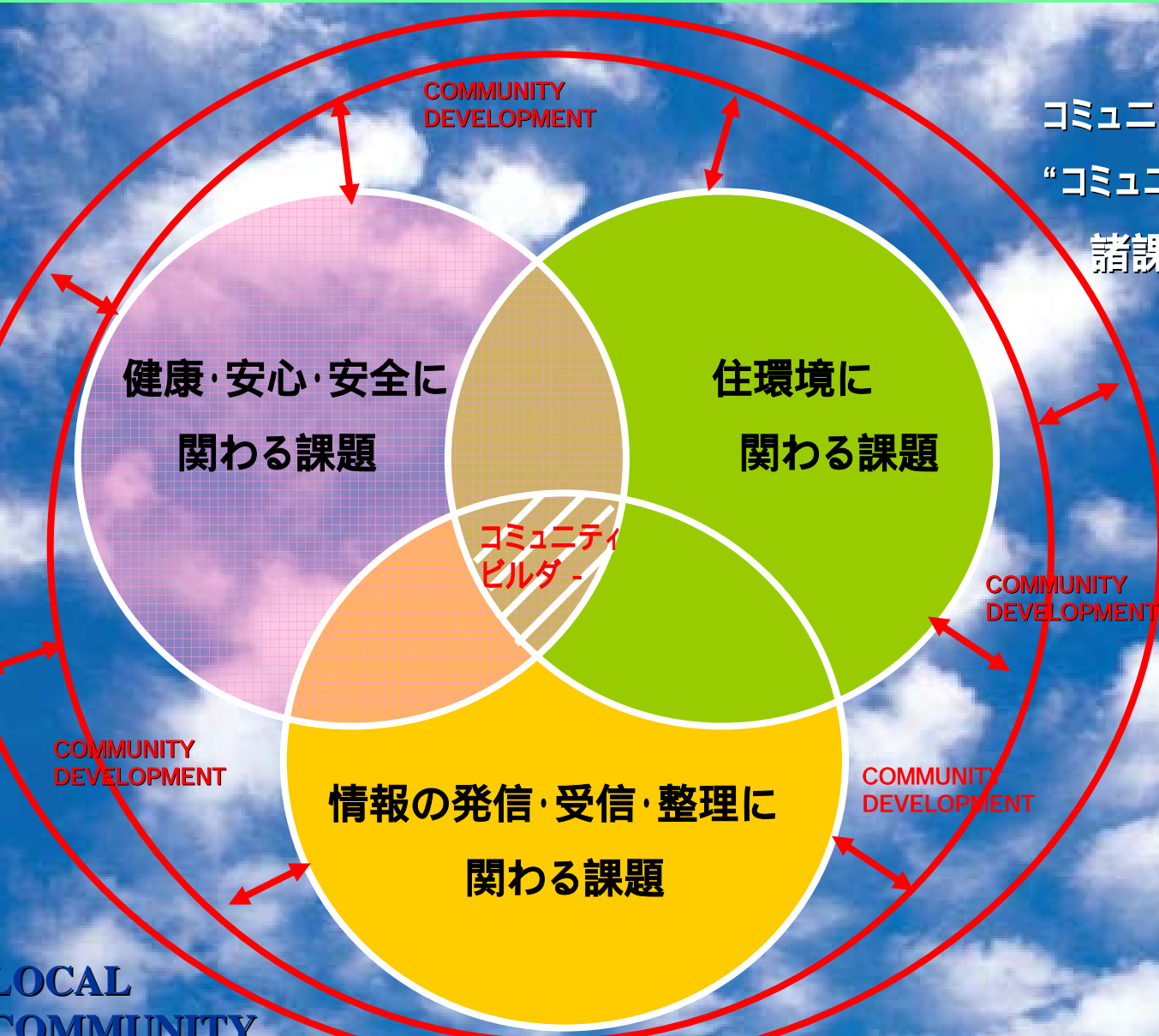
業績の拡大

ビルダー



知識・技術と
血縁・地縁を
保持活用

7. コミュニティビルダーの仕事



コミュニティビルダーの役割は、
“コミュニティ・ディベロップメント”！
諸課題の解決と提案と実践

地域社会における

相談者

解決・提案者

指導者

施工者...

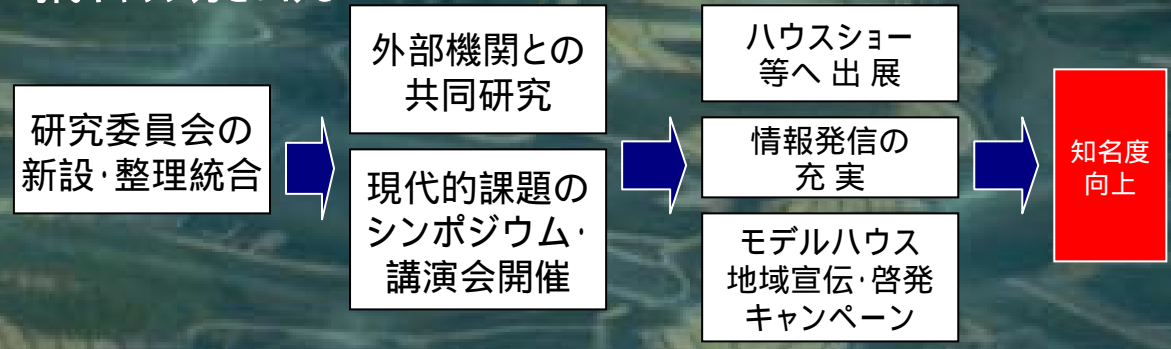
LOCAL
COMMUNITY

8. 健康住宅普及協会 戦略の展開 (2006 ~)

● 時代を先取りした 研究・啓発活動

研究・啓発活動の充実と発展

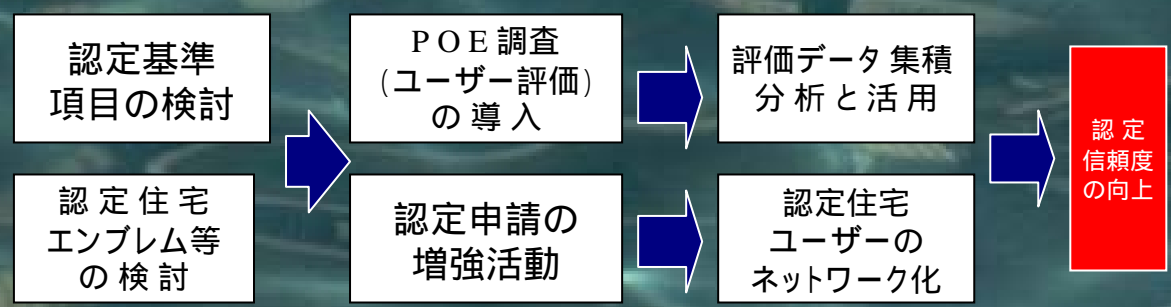
時代キャッチ力をつける



● ユーザー評価を含む 総合的な住宅判定

健康住宅認定制度の充実と発展

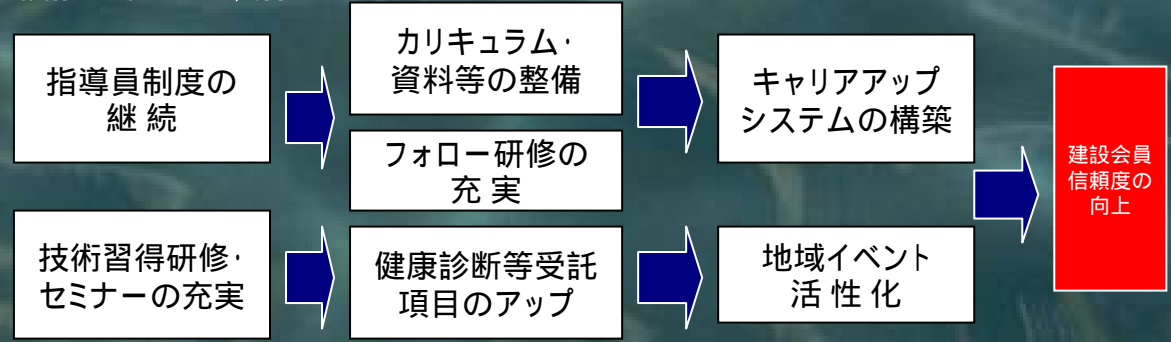
データ分析力をつけ、科学的にモノを考える



● 幅広く健康的な暮らしの アドバイスができる コミュニティビルダーの育成

健康住宅指導員制度の充実と発展

技術を身につけ、活かす



健康住宅普及協会の活動